Make Kyushu Sustainable 九州の持続可能な未来のために

Diamond

未来が見える 世界をつくる。
マイナビ

Platinum

100年をつくる会社
鹿島

Gold

BRIDGESTONE
SUNTORY BEVERAGE & FOOD
この道の先に NIPPO
福岡トランス 物流の未来を考える。
まちに、夢を描こう。 Nishitetsu Group
KYUDEN GROUP ずっと先まで、明るくしたい。

Silver

STANDARD & ADVANCED CONSULTING CORPORATION
ITFOR
ANA
JAPAN AIRLINES
docomo
SoftBank
Cygames

Bronze

JR九州
NTT西日本
肥後銀行
MUFG 三菱UFJフィナンシャル・グループ
AsahiKASEI
JTB 感動のそばに、いつも。
ナンバーズ LOTO

Apparel

ユニクロ UNIQLO
LifeWear

Consulting

DBJ

Iron

東京海上日動
Aso
KRAFTIA
FFG ふくおかフィナンシャルグループ
第一生命 Dalichi Life Group
西日本シティ銀行
西部ガスグループ いつもの朝と、新しい明日を。
九州産交グループ
ZENRIN
TOTO
三菱商事
NOMURA 野村證券
Kabuda
JR西日本グループ
Shape your world APU Ritsumeikan Asia Pacific University
大分銀行
Spark Your Journey KDDI
昭和自動車株式会社
PMI プロテリアル インベストメント
佐賀新聞社
株式会社ミソタ
株式会社松浦重機
ヤマエグループ
QTnet
有限会社 広栄商会

Supporters

第一交通産業株式会社／三井不動産株式会社／株式会社NTNセールスジャパン／株式会社宮崎銀行／宮交ホールディングス株式会社
株式会社筑邦銀行／石井食品株式会社／株式会社戸上電機製作所／株式会社佐賀銀行／久光製薬株式会社

黒崎播磨株式会社／株式会社SYSKEN／トヨタ自動車九州株式会社／株式会社テノ．ホールディングス／福岡地所株式会社
株式会社ふくや／株式会社北九州銀行／住友商事九州株式会社／株式会社福山コンサルタント／金剛株式会社
株式会社パールイズミ／Audi北九州／社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院／AirFly FUKUOKA Partnered with SEVEN'FES Inc.
株式会社オートポリス／宮崎トヨタ自動車株式会社／株式会社まちのわ／出光興産株式会社九州支店／株式会社電通九州
株式会社山口油屋福太郎／株式会社近宣／株式会社西鉄エージェンシー／オルペアジャパン合同会社

UCI ASIA TOUR　スポーツくじ BIG WINNER PUNK

“We stand with Kumamoto.”

マイナビ ツール・ド・九州

TOUR de KYUSHU 2026

大会報告書（速報版）

UCIコンチネンタルサーキット Class 1

がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州2026

2026.10.9 FRI → 12 MON

- EXHIBITION ｜ 佐世保クリテリウム
- STAGE 1 ｜ 佐賀・福岡（唐津→福岡）
- STAGE 2 ｜ 大分・熊本（豊後大野→南阿蘇）
- STAGE 3 ｜ 宮崎日南（宮崎→宮崎）

熱い走りを
美しい九州を
世界へ

主催者あいさつ

はじめに、令和８年熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の早期の復旧・復興と、被災された皆様が平穏な生活を取り戻されることを、心よりお祈り申し上げます。

また、今大会は、スポーツの力を通じて被災地を応援し、復興に向けて歩む皆様と心を一つにする機会とすべく、大会名称を「がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州２０２６」に改め、開催いたしました。

第４回目である今年は、新たに佐賀県を開催県に迎え、初参加の世界ランキング１位のUAEチームエミレーツ・XRGを含む、国内外の18チーム、107名（25か国・地域）の選手を招聘し、10月9日からの4日間、大会を実施いたしました。

また、天神や宮崎県庁前をフィニッシュ地点とするステージや、ツール・ド・九州版キャラバンなど、新たな取組を通じて、サイクルロードレースの魅力とともに、九州の景勝地や歴史・文化、食など、多彩な魅力を国内外に発信いたしました。

沿道の皆様の温かい声援は、選手たちを力強く後押しするとともに、大会の盛り上がりにつながりました。

本大会は“Make Kyushu Sustainable～九州の持続可能な未来のために～”という大会基本方針のもとSDGs活動を実行し、今後もサイクルロードレースの域を超えた未来志向のイベントを目指してまいります。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なご支援とご協力を賜りました開催地の関係者及び地域住民の皆様、国内外から参加された選手、競技役員の皆様、並びにご協賛、ご後援、ご協力をいただきました企業・団体の皆様に、厚く御礼申し上げます。

大会の更なる発展と九州が一体となって地域の価値を共創する取組みに、引き続きご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ツール・ド・九州2026実行委員会 会長
一般社団法人九州経済連合会 会長
池辺　和弘

開催概要

大会名称	がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州2026
主催	ツール・ド・九州2026実行委員会、一般社団法人ツール・ド・九州
後援	自転車活用推進議員連盟／国土交通省自転車活用推進本部／総務省／経済産業省／スポーツ庁／観光庁／九州環境局
日程	2026年10月9日（金）～12日（月・祝）
開催地	長崎県／佐賀県／福岡県／大分県／熊本県／宮崎県
協力	佐世保市／唐津市／糸島市／国立大学法人九州大学／福岡市／豊後大野市／竹田市／南小国町／産山村／阿蘇市／高森町／南阿蘇村／宮崎市／日南市
レース形式	転戦型ステージレース（ロード）及びクリテリウム（小周回サーキットレース）
レースカテゴリ	UCIアジアツアー2.1（ステージレース　クラス1）
各ステージの距離	10/ 9（金）　クリテリウム　佐世保　約45km 10/10（土）　第1ステージ　佐賀・福岡（唐津ー福岡）　152.0km 10/11（日）　第2ステージ　大分・熊本（豊後大野ー南阿蘇）　127.8km 10/12（月・祝）　第3ステージ　宮崎日南（宮崎ー宮崎）　116.1km
コース	全走行距離440.9km　獲得標高5135m
参加者	18チーム（ 国内9、海外9 ）　選手107人（25ヶ国、地域）、チームスタッフ91人
スタッフ	10,199人
使用車両	4輪83台（HV34台）、2輪45台
公式URL	https://www.tourdekyushu.asia/
観客（速報値）：	261,000人（佐世保14,000人/佐賀15,000人/福岡150,000人/大分28,000人/熊本14,000人/宮崎40,000人） パブリックビューイング：唐津市2,250人　熊本市41,000人 YouTube：79.3万回（10/9～10/31） X（旧ツイッター）：210万回（表示数）（10/9～10/12） Instagram：429.7万回（表示数）（10/9～10/12）

コース紹介

EXHIBITION

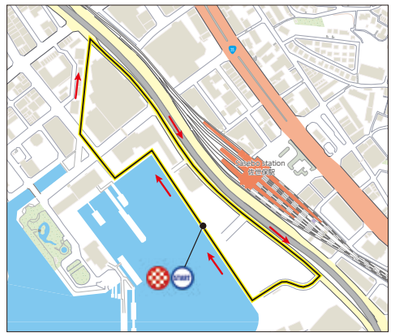


佐世保クリテリウム SASEBO CRITERIUM

10/9㊎13:00 スタート

45km

佐世保駅や商業施設「させぼ五番街」周辺を周回するコース。
1周約1.5kmのコースを30周して順位を競う。



STAGE 1



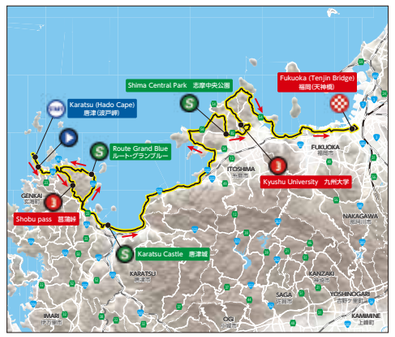


佐賀・福岡 SAGA-FUKUOKA

10/10㊏10:00 スタート

唐津 ― 福岡 152km

唐津市の波戸岬をスタートしてルート・グランブルーを走り、玄界灘の海岸線を望みながら糸島市を経て、福岡市の中心部・天神でフィニッシュするラインレース。



STAGE 2



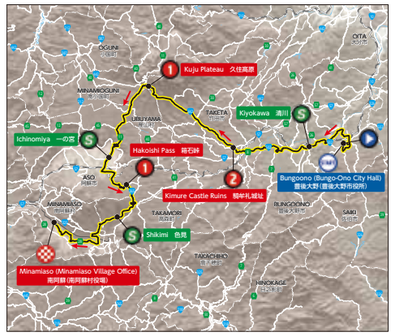


大分・熊本 OITA-KUMAMOTO

10/11㊐ 10:00 スタート

豊後大野 ― 南阿蘇 127.8km

豊後大野市役所前をスタートし、原尻の滝や久住高原などの観光名所を通過。その後、やまなみハイウェイを南下し、阿蘇外輪山の稜線や草原が織りなす壮大な景観の中を走り抜け、南阿蘇村役場でフィニッシュするラインレース。



STAGE 3

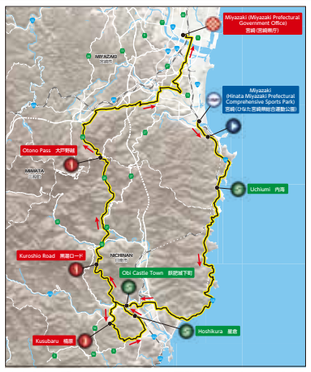


宮崎日南 MIYAZAKI NICHINAN

10/12㊊㊗9:00　スタート

宮崎 ― 宮崎 116.1km

ひなた宮崎県総合運動公園前から日南海岸を南下し、日南市内の飫肥周回コースを2周した後、宮崎県庁前でフィニッシュする南国宮崎を象徴する魅力溢れるラインレース。



※安全上の理由により、ニュートラル区間が、スタート地点から2.5kmまでの区間から10 kmまでの区間に延長されました。これに伴い、コース全長及びスプリントポイントが変更されました。

©2026 ZENRIN CO., LTD.
測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 5JHs 167-784号
測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 5JHs 168-357号

UEX



UAE TEAM EMIRATES XRG
UAEチームエミレーツ・XRG

UAE
アラブ首長国連邦

UCI World Team
UCI ワールドチーム

XAT



XDS ASTANA TEAM
XDS・アスタナ チーム

Kazakhstan
カザフスタン

UCI World Team
UCI ワールドチーム

TFT



SOLUTION TECH NIPPO RALI
ソリューションテック・NIPPO・ラーリ

Italy
イタリア

UCI Pro Team
UCI プロチーム

TEN



TOTALENERGIES
トタルエナジーズ

France
フランス

UCI Pro Team
UCI プロチーム

ART



AISAN RACING TEAM
愛三工業レーシングチーム

Japan
日本

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

ABZ



ASTEMO UTSUNOMIYA BLITZEN
Astemo宇都宮ブリッツェン

Japan
日本

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

CBW



CCACHE X BODYWRAP
キャッシュ X ボディラップ

Australia
オーストラリア

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

KIN



KINAN RACING TEAM
キナンレーシングチーム

Japan
日本

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

LNS



LI NING STAR
リーニン・スター

China
中国

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

ROI

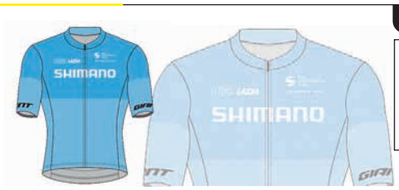


ROOJAI INSURANCE WINSPACE
ルージャイ・インシュランス・ウィンスペース

Thailand
タイ

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

SMN



SHIMANO RACING TEAM
シマノレーシング

Japan
日本

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

SPA



SPARKLE OITA RACING TEAM
スパークルおおいたレーシングチーム

Japan
日本

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

TUK



TEAM UKYO
TEAM UKYO

Japan
日本

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

TSG



TERENGGANU CYCLING TEAM
トレンガヌ・サイクリングチーム

Malaysia
マレーシア

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

VCF



VC FUKUOKA
VC福岡

Japan
日本

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

VCH



VICTOIRE HIROSHIMA
ヴィクトワール広島

Japan
日本

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

VSC



VICTORIA SPORTS PRO CYCLING
ヴィクトリア・スポーツ・プロサイクリング

Philippines
フィリピン

UCI Continental Team
UCI コンチネンタルチーム

JPN



JAPAN NATIONAL TEAM
日本ナショナルチーム

Japan
日本

National Team
ナショナルチーム

EXHIBITION

SASEBO CRITERIUM
佐世保クリテリウム

『がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州2026』の皮切りとなる佐世保クリテリウムは、10月9日（金）、長崎県佐世保市内のコースで開催され、ルーク・バーンズ（ヴィクトワール広島）が逃げ切りで勝利を飾った。
スタート直後からペースが上がり、いくつかのアタックはあったものの、集団はひとつのまま序盤戦が進行。5周目のフィニッシュラインに設定された特別周回賞は昨年2位のアレッシオ・デッレ・ヴェドーヴェ(XDS・アスタナ チーム)が獲得。
特別周回賞は、10周回がトンマーゾ・ダーティ（TEAM UKYO）、15周目・20周目はデッレ・ヴェドーヴェが連続で手にしている。
25周回は野崎然新（日本ナショナルチーム）が並み居るワールドチームやプロチームの選手を置き去りにして獲得している。
レースは、集団が一つのまま、最終周回へ。一瞬ペースが緩んだ隙をルーク・バーンズがアタックして単独で抜け出す。虚をつかれた集団は、XDS・アスタナ チームが人数を揃えて追走体制を取ったが、ルーク・バーンズを捉えることができない。
充分なマージンを得たまま最終コーナーを抜けたルーク・バーンズが、先頭でフィニッシュラインを切った。格上チームが揃う中で、価値ある勝利を国内チームにもたらした。
エキシビションレースながら、ワールドチームとプロチームが攻撃的な走りを見せた佐世保クリテリウム。これから続く3日間が激戦必至となることを予感させた55分54秒のレースだった。











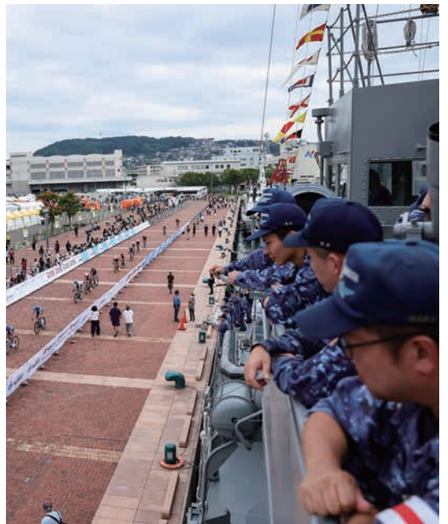














STAGE 1 SAGA－FUKUOKA
佐賀・福岡（唐津ー福岡）

ステージレース初日となるSTAGE 1 佐賀・福岡は、佐賀県唐津市の波戸岬をスタートし、福岡県糸島市を経て福岡市天神でフィニッシュする152.0km。
4年目を迎えるマイナビ ツール・ド・九州が、初めて佐賀県で開催された。
9km地点に設定されたこの日最初の山岳ポイントを待たずして、ワールドチームの選手を含む12名の逃げが形成された。
周回コースで3度通過する菖蒲峠の山岳ポイントはすべてイヴォ・オリヴェイラ(UAEチームエミレーツ・XRG)が先頭通過。
イヴォ・オリヴェイラは、ルート・グランブルー（20.7km）と唐津城（63.8km）に設定されたスプリントポイントも制し、ここまでのポイントを総取りする走りを見せた。
残り44.6km地点の中間スプリントである志摩中央公園はマティアス・ブレンホイ(トレンガヌ・サイクリングチーム)が、九州大学伊都キャンパスに設置された山岳ポイントはアレクシス・パガラ(ヴィクトリア・スポーツ・プロサイクリング)が先頭通過を果たした。
先頭はメイン集団との差を維持しながらフィニッシュへ進む。残り20kmを切ってタイム差は1分7秒。逃げ切りも見えてきた先頭だったが、追い込んでくるメイン集団には抗えず残り5kmで吸収され、集団は大都会福岡の天神へと突入していく。
アシストに引き連れられ好ポジションで最終コーナーを抜けたのはマッテオ・マルチェッリ(XDS・アスタナ チーム)。残り200mからスプリントを開始すると、誰も寄せ付けずステージ優勝を飾った。
ステージ6位に入った本多 晴飛(VC福岡)はベストジャパニーズ賞を獲得し、所属チームの地元福岡に華を添えた。











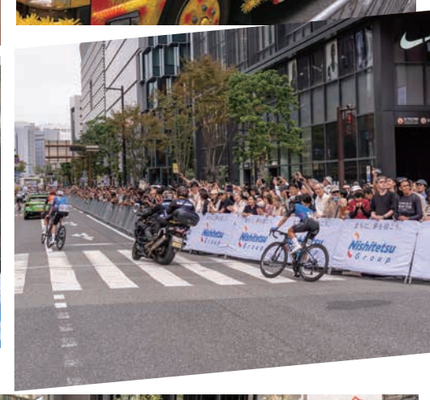








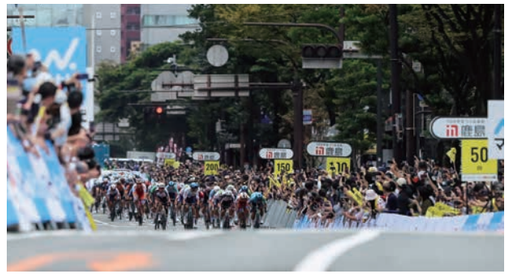














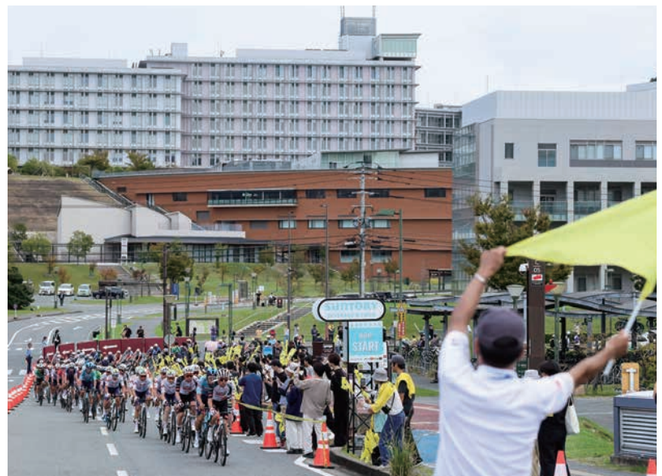
















STAGE 2 OITA－KUMAMOTO
大分・熊本（豊後大野－南阿蘇）





大会3日目となるSTAGE 2 大分・熊本。大分県豊後大野市役所を出発し、熊本県阿蘇山の外輪を走り南阿蘇村役場に至る127.8kmの山岳ステージは、総合成績を争う上でも重要な一日。
道の駅 きよかわ（豊後大野市清川町、残り106.3km）前に設定された清川のスプリントポイントはジェラルド・レデスマ(VC福岡)が先頭で通過しボーナスタイムを獲得した。
2級山岳の騎牟礼城址(同86.7km)はジェビン・ユン(ルージャイ・インシュランス・ウィンスペース)がジェラルド・レデスマとの競り合いを制して先頭通過した。続く1級山岳 久住高原(同66.1km)では逆にレデスマがユンに先着、一進一退の山岳賞争いがヒートアップした。
一の宮のスプリントポイント（同44.2km）はウィリアム・ヘファーナン(キャッシュ X ボディラップ)が獲得した。
この日のコースは“東洋のナイアガラ”と称される原尻の滝（大分県豊後大野市）や、竹田市の風情溢れる城下町、そして名水名湯田園観光都市でもある街並み、平成28年熊本地震被害からの復旧工事を終えた阿蘇神社といった風光明媚エリアに置かれ、多くのファンが世界レベルのロードレースを観に沿道に繰り出していた。
1級山岳箱石峠（同32.3km）で逃げグループからファン・エングレン(トレンガヌ・サイクリングチーム)がペースを上げ単独になる中、メイン集団ではトタルエナジーズがチーム総掛かりで攻撃を開始。トマ・ボネ（トタルエナジーズ）を先行させたが、UAEチームエミレーツ・XRGが逃さない。
色見のスプリントポイント(同20km)では、イヴォ・オリヴェイラ(UAEチームエミレーツ・XRG)が先頭通過し、激化するポイント争いを制した。
勝負は小集団でのスプリントに持ち込まれ、囲まれて出足が遅れたオリヴェイラが脅威の加速を見せ、先行していたヘファーナンを逆転。劇的なステージ優勝を飾るとともに総合リーダーの座についた。











































STAGE 3 MIYAZAKI NICHINAN

宮崎日南（宮崎ー宮崎）







大会最終日となる宮崎日南ステージは、ひなた宮崎県総合運動公園を出発し、日南市を経由して宮崎県庁に至る116.1km。
スタート直後からワールドチームを含め多くの選手がアタックを繰り返す展開となり、16kmを走ってようやく逃げが決まる展開。
フィニッシュまで84kmを残した飫肥城下町（日南市）のスプリントポイントは逃げからラマン・ツィシコウ(リーニン・スター)が先頭で通過した。
残り71km地点のスプリントポイント星倉も、ツィシコウが先頭通過を果たす。
メイン集団ではフィニッシュまで残り64.3kmと距離を残した3級山岳楠原でトタルエナジーズが総攻撃に打って出る。3級山岳を終えた下りでメイン集団は逃げていた選手を全て吸収。
2回目の星倉のスプリントポイント（同56.1km）で先着したのは総合時間賞リーダージャージを着るオリヴェイラだった。
続く1級山岳黒潮ロードではトタルエナジーズが登り口からハイペースを刻み、残り52km地点でジョルダン・ジェガット（トタルエナジーズ）がアタックして単独先頭に出る。
ジェガットは力強く逃げ、黒潮ロードに続き1級山岳大戸野越も単独先頭で越えた。1分11秒差で続くメイン集団はUAEチームエミレーツ・XRGがコントロールを失う場面もあったが、下り区間でケヴィン・ヴェルマーク(UAEチームエミレーツ・XRG)がまとめ上げ、残り11km地点でジェガットを吸収することに成功する。
宮崎県庁前でのスプリントは総合2位のルーク・マッジウェイ（リーニン・スター）が先行したが、その後ろにつけたオリヴェイラが伸びを見せ逆転。オリヴェイラはこのステージ優勝により文句なしの総合優勝を遂げている。世界屈指のスピードマンとして知られる彼だが、これが意外にもキャリア初のステージレースにおける総合優勝だった。







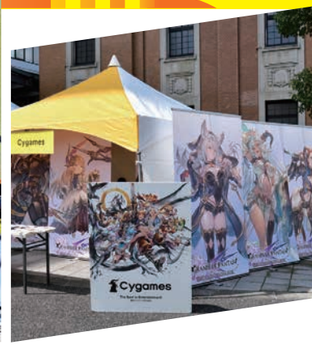
































EXHIBITION 佐世保クリテリウム

優勝
BURNS Luke
ルーク・バーンズ《VCH》







ベストジャパニーズ賞
OKA Atsushi
岡篤志《ABZ》





特別周回賞

5周回
DELLE VEDOVE Alessio
アレッシオ・デッレ・ヴェドーヴェ《XAT》



10周回
DATI Tommaso
トンマーゾ・ダーティ《TUK》



15周回
DELLE VEDOVE Alessio
アレッシオ・デッレ・ヴェドーヴェ《XAT》



20周回
DELLE VEDOVE Alessio
アレッシオ・デッレ・ヴェドーヴェ《XAT》



25周回
NOZAKI Zenshin
野崎然新《JPN》



STAGE 1 佐賀・福岡

ステージ優勝
MALUCELLI Matteo
マッテオ・マルチェッリ《XAT》

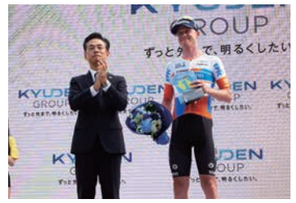




ベストジャパニーズ賞
HONDA Haruhi
本多晴飛《VCF》




敢闘賞
BREGNHØJ Mathias
マティアス・ブレンホイ《TSG》





総合時間賞
MALUCELLI Matteo
マッテオ・マルチェッリ《XAT》



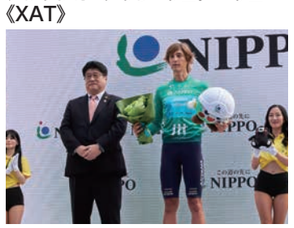

ポイント賞
MALUCELLI Matteo
マッテオ・マルチェッリ《XAT》




山岳賞
OLIVEIRA Ivo
イヴォ・オリヴェイラ《UEX》




新人賞
DELLE VEDOVE Alessio
アレッシオ・デッレ・ヴェドーヴェ《XAT》




STAGE 2 大分・熊本

ステージ優勝
OLIVEIRA Ivo
イヴォ・オリヴェイラ《UEX》





ベストジャパニーズ賞
OKAMOTO Hayato
岡本隼《ART》





敢闘賞
VAN ENGELEN Adne Willemjan
アドネ・ヴィレムヤン・ファン・エングレン《TSG》





総合時間賞
OLIVEIRA Ivo
イヴォ・オリヴェイラ《UEX》





ポイント賞
MUDGWAY Luke
ルーク・マッジウェイ《LNS》





山岳賞
LEDESMA GARCIA Gerard
ジェラルド・レデスマ《VCF》





新人賞
HEFFERNAN William
ウィリアム・ヘファーナン《CBW》





STAGE 3 宮崎日南

ステージ優勝
OLIVEIRA Ivo
イヴォ・オリヴェイラ《UEX》





ベストジャパニーズ賞
OKA Atsushi
岡篤志《ABZ》





敢闘賞
JEGAT Jordan
ジョルダン・ジェガット《TEN》





総合順位

総合時間賞
OLIVEIRA Ivo
イヴォ・オリヴェイラ《UEX》











ポイント賞
OLIVEIRA Ivo
イヴォ・オリヴェイラ《UEX》





山岳賞
LEDESMA GARCIA Gerard
ジェラルド・レデスマ《VCF》





新人賞
DELLE VEDOVE Alessio
アレッシオ・デッレ・ヴェドーヴェ《XAT》





チーム賞
TOTALENERGIES
トタルエナジーズ《TEN》



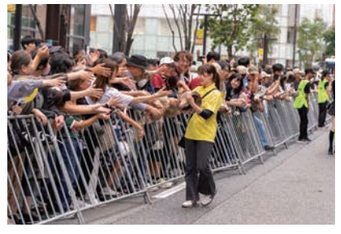


がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州2026版キャラバン

協賛企業のロゴをまとったラッピングカー5台が、コースを通過し、各地の特設ポイントで大会キャラバン隊によるグッズ配布を行った。
【キャラバン協賛】
株式会社マイナビ／鹿島建設株式会社／福岡トランス株式会社／九州電力株式会社
スタンダード・アンド・アドバンスド・コンサルティング株式会社／全日本空輸株式会社／株式会社ユニクロ
株式会社ブリヂストン／サントリーフーズ株式会社











令和8年熊本地震義援金の街頭募金

令和8年熊本地震義援金の街頭募金を、協賛各社の協力を得て会場各所で実施した結果、総額503,515円の募金が集まった。
なお、募金は10月29日に熊本県知事へ目録を贈呈し、熊本県へ寄付した。








The “Tour de Kyushu” is one of Japan’s premier cycling road races, set to take place across various prefectures in Kyushu in October 2026. However, it is not merely a sports event.
This unique occasion aims to showcase Kyushu’s magnificent natural environment and rich cultural heritage to both domestic and international audiences. It also serves as a symbol of recovery from past disasters and presents a vision for the future that Kyushu should strive toward.
Our event is committed to sustainable development goals (SDGs) by implementing environmentally friendly operations, respecting the natural environment, and promoting the sustainable use and protection of Kyushu’s abundant water resources. We aspire to create a future-oriented event that transcends the boundaries of a traditional cycling race.
As part of these efforts, we have endorsed the UCI Climate Action Charter and signed the commitment as one of its 80 founding members worldwide.

「がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州2026」とは、2026年10月に開催した九州各県を舞台にくり広げられる、日本屈指のサイクルロードレースです。加えて、単なるスポーツイベントにとどまらず、九州ならではの大自然や文化を国内外に向けて発信し、過去の災害からの復興と、進むべき未来像を示す、唯一無二のイベントとして開催いたします。
環境負荷が少ない運営や、自然環境への配慮、九州の豊富な水資源の活用と保護等、持続可能な九州の未来のためにSDGs活動を実現する大会とし、サイクルレースの域を超えた未来志向のイベントを目指します。
その一環として、UCI気候行動憲章に賛同し、世界80の創設メンバーの一員として、コミットメントに署名しました。

REGIONAL CONTRIBUTION & RECOVERY
地域貢献・復興

- Expanding population exchanges
- Promoting the appeal of Kyushu → Tourism and disaster recovery
- Local production for local consumption of food and regional products
- Promoting employment
- Fostering regional collaboration
- Educating children (SDGs, international exchange, sports promotion)

- 交流人口の拡大
- 九州の魅力発信 → 観光復興・災害復興
- 食材や地域産品の地産地消
- 雇用の促進
- 地域間連携の推進
- 子どもたちへの教育（SDGs、国際交流、スポーツ普及）

株式会社マイナビ
「マイナビ ツール・ド・九州 Locusプログラム」
地域企業と高校生による地域課題解決プログラム

国土交通省九州地方整備局
九州の魅力、サイクルルートを発信

株式会社ブリヂストン
自転車競技のパラリンピアンによる講演会
小中学生を対象とした交通安全事業の開催

公益財団法人阿蘇グリーンストック
地域の自然を保全し、魅力を発信する団体との連携

ENVIRONMENT
環 境

- Achieving carbon neutrality
- Reducing plastic waste
- Utilizing and protecting local water resources

- カーボンニュートラルの実現
- プラスチックごみの抑制
- 地域水資源の活用・保護

サントリーフーズ株式会社
大会公式ドリンク サントリー天然水

HEALTH
健 康

- Promoting cycling sports
- Promoting the Bicycle Utilization Promotion Plan

- サイクルスポーツの普及
- 自転車活用推進計画の啓蒙

九州旅客鉄道株式会社
大会と連動したウォーキングイベントの開催

DEMONSTRATING ADVANCED TECHNOLOGY
先端技術の実証

- Driving business through digital transformation (DX)
- Demonstrating innovation by companies and organizations

- DXによる事業推進
- 企業団体のイノベーション実証

K-robot株式会社
地図情報システム（GIS）を活用した大会運営

株式会社アイティフォー
キャッシュレス決済端末の導入

ソフトバンク株式会社
Eutelsat OneWebを利用した、映像データ通信

The Tour de Kyushu sets ambitious goals for a sustainable future for Kyushu through various SDG activities. We are committed to addressing Japan's social challenges and contributing to economic growth.

ツール・ド・九州は、様々なSDGs活動を通じた、持続可能な九州の未来のための目標を掲げています。そして日本の社会課題解決・経済的成長を成し遂げていきたいと考えています。